



Data Migration Assistant ユーザ ガイド Release 5.1(3)

このマニュアルでは、Data Migration Assistant (DMA) について説明し、DMA をインストールして使用する方法および関連情報を示します。

このマニュアルは、Cisco Unified CallManager バージョン 4.0(x) または 4.1(x) を実行している場合に、Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする準備が整った時点でお読みください。

本書の内容は、次のとおりです。

- [DMA の概要 \(P.2\)](#)
- [DMA の取得 \(P.3\)](#)
- [DMA のインストール \(P.3\)](#)
- [DMA の削除 \(P.6\)](#)
- [始める前に \(P.8\)](#)
- [DMA の実行 \(P.12\)](#)
- [DMA エクスポート情報ファイル \(P.15\)](#)
- [DMA の管理とトラブルシューティング \(P.16\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.21\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.21\)](#)

DMA の概要

DMA は、次の各項で説明しているように、Cisco Unified CallManager および Cisco Emergency Responder のデータを移行します。

DMA は、バージョン 4.0(x) および 4.1(x) の Cisco Unified CallManager データを、Cisco Unified CallManager 5.1(3) が読み取り可能な形式でエクスポートすることで、Cisco Unified CallManager データをバージョン 4.0(x) および 4.1(x) から Cisco Unified CallManager 5.1(3) に移行する上での最初のステップを支援します。Cisco Unified CallManager 4.1(x) は Windows 環境で動作し、Cisco Unified CallManager 5.1(3) は Linux 環境で動作するため、DMA は Windows ベースのデータを、Linux がインポートできる形式にエクスポートします。Cisco Unified CallManager 5.1(3) のインストールプロセスで、Cisco Unified CallManager 5.1(3) の必要に応じて、エクスポートされたデータが変換され、それによってデータ移行が完了します。また、DMA は、Cisco Emergency Responder 1.3 を Cisco Emergency Responder 2.0 にアップグレードするためにデータをエクスポートします。詳細については、『Cisco Emergency Responder Administration Guide』を参照してください。

DMA は、Tape Archive (TAR; テープ アーカイブ) ファイルにエクスポートしたデータを、指定された場所に保存します。

Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする前に、Cisco Unified CallManager パブリッシャ サーバ上で DMA をインストールして実行する必要があります。DMA の実行後に Cisco Unified CallManager に設定変更を加えた場合、アップグレードするとその変更が失われます。

DMA は、Cisco Unified CallManager データをエクスポートするだけでなく、次の関連アプリケーションのデータもエクスポートします。

- Cisco Unified CallManager Attendant Console (AC)
- Cisco Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ)
- CDR Analysis and Reporting (CAR)
- Certificate Authority Proxy Function (CAPF; 認証局プロキシ関数)
- Certificate Trust List (CTL; 証明書信頼リスト)
- International Dial Plan (IDP)

DMA は、次の情報をエクスポートしません。

- カスタム Music on Hold (MOH; 保留音) ファイル : Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードした後に、このファイルを再度適用する必要があります。
- TFTP 電話機ロード ファイル : Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードした後に、このファイルを再度適用する必要があります。
- Cisco Unified CallManager サブスクリバサーバ上のファイル: サブスクリバサーバは、Cisco Unified CallManager アップグレードプロセスの一部として、必要な情報をパブリッシャ サーバから取得します。

DMA の取得

DMA を Cisco Unified CallManager パブリッシャ サーバにダウンロードするには、次の手順を実行します。Cisco.com の登録ユーザだけがこのソフトウェアをダウンロードできます。

手順

ステップ 1 次の URL にアクセスします。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-51>

ステップ 2 DMA ファイルのリンクを選択します。

ステップ 3 プロンプトに従い、必要な情報を入力して、ソフトウェアをダウンロードします。

DMA のインストール

この項では、DMA のインストールおよびその手順について詳しく説明します。次のトピックについて取り上げます。

- [インストール前のガイドラインと手順 \(P.3\)](#) : DMA をインストールする前に、この情報を確認してください。
- [DMA のインストール手順 \(P.4\)](#) : この手順に従って、DMA をインストールします。

インストール前のガイドラインと手順

DMA をインストールする前に、次のガイドラインを確認し、適切な手順を実行してください。

- DMA をサーバにインストールする前に、次のいずれかのサポート対象製品がサーバにインストールされていることを確認します。
 - Cisco Unified CallManager 4.1(x) (パブリッシャとして設定されていること)
 - Cisco Emergency Responder 1.3



(注) DMA インストレーション ウィザードは、サポート対象製品が存在するかどうかを確認します。サーバにサポート対象製品がインストールされていない場合は、DMA をインストールできません。

- Terminal Services を使用して DMA をインストールしないでください。
- Virtual Network Computing (VNC) を使用して DMA をインストールできます。VNC の詳細については、最新バージョンの『*Using Virtual Network Computing*』を参照してください。このマニュアルは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/vnc/index.htm

- 以前のバージョンの DMA を必ずアンインストールしてください。詳細な手順については、[P.6 の「DMA の削除」](#)を参照してください。
- DMA は、Cisco Unified CallManager 4.1(x) サーバの C:\ ドライブ上に 4 GB の空きディスク領域を必要とします。

- Cisco Security Agent for Unified CallManager を無効にします（有効になっている場合）。



(注) DMA を実行する前に Cisco Security Agent for Unified CallManager のアンインストールが必要になることがあります。問題がある場合は、詳細についてシスコのサポートにお問い合わせください。

インストールの完了後、必ず CSA を有効にしてください。

CSA を無効および有効にする方法については、『*Installing Cisco Security Agent for Unified CallManager*』を参照してください。このマニュアルは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/csa/index.htm

DMA のインストール手順

DMA をインストールするには、次の手順を実行します。

この手順は、完了までに約 20 分かかります。

DMA をインストールする前に、P.3 の「インストール前のガイドラインと手順」の情報を確認してください。



(注) 以前のバージョンの DMA がインストールされている場合は、別のバージョンをインストールする前に、以前のバージョンを削除する必要があります。詳細については、P.6 の「DMA の削除」を参照してください。

手順

ステップ 1 Windows Administrator としてサーバにログインします。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- DMA インストール ディスクを持っている場合は、そのディスクを挿入します。
- ダウンロードした DMA がある場合は、DMA を保存したフォルダに移動し、**DataMigrationAssistant-5-1-3.exe** をダブルクリックします。

[DMA Welcome] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [DMA Welcome] ウィンドウで、[Next] をクリックします。

[License] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ライセンス契約に同意し、[Next] をクリックします。[Informix Password] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Informix Password] テキスト ボックスに、Informix Database Server (IDS) のパスワードを入力します。

パスワードは、次の各文字タイプを少なくとも 1 つ使用して 8 ~ 14 文字にする必要があります。

- 大文字 (A ~ Z)
- 小文字 (a ~ z)

- 数字 (0 ~ 9)
- 特殊文字 ({} ,.<>:?!@ \$ ^ & * () _ - +)



(注) Informix パスワードに 3 つのバック スラッシュ文字 (\) を使用することはできません。

**注意**

DMA のインストール後に Informix パスワードを変更しないでください。このパスワードを変更すると、DMA エクスポートが失敗します。

ステップ 6 [Confirm Password] テキスト ボックスに、パスワードを再度入力します。

[Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [Ready to Install] ウィンドウで、[Install] をクリックします。

インストールが開始されます。[Installing Data Migration Assistant] ウィンドウに、インストールの進捗状況が表示されます。

約 20 分後、[InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウで、[Finish] をクリックします。

サーバを再起動するように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 9 [Yes] をクリックして、サーバを再起動します。

サーバが再起動すると、DMA のインストールが完了します。

DMA の削除

別の DMA バージョンをインストールする前に、DMA、および DMA と共にインストールされたアプリケーションを削除する必要があります。DMA を削除するには、次の各項の手順を実行します。

- P.6 の「Informix サービスの停止」
- P.6 の「Informix Dynamic Server の削除」
- P.7 の「Informix Client SDK のアンインストール」
- P.7 の「DMA のアンインストール」

Informix サービスの停止

Informix サービスを停止するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [コンピュータの管理] > [サービスとアプリケーション] > [サービス] を選択します。
- ステップ 2** 次の各サービスを右クリックして、[停止] を選択します。
- Informix Dynamic Server Message Service
 - Informix IDS - ccm
 - Informix Server Discovery Process for SNMP
- ステップ 3** P.7 の「DMA のアンインストール」の説明に従って、DMA の削除を続行します。
-

Informix Dynamic Server の削除

Informix Dynamic Server (IDS) を削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** IDS アプリケーションをアンインストールします。
- [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] の順に選択します。
 - [アプリケーションの追加と削除] ウィンドウで、[Informix Dynamic Server] を選択します。
 - [削除] をクリックします。[Uninstall Informix Dynamic Server] ダイアログボックスが表示されます。
 - アンインストール方法 [Remove all database server files and all database information] を選択し、[OK] を選択します。[Uninstall All Files and Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Yes] をクリックしてすべてのファイルを削除します。[Delete User Account] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Yes] を選択して informix ユーザアカウントを削除します。Informix Storage Manager (ISM) サーバを削除するかどうかの確認を求められます。
 - [Yes] を選択して Informix Storage Manager (ISM) サーバを削除します。SNMP 拡張エージェントを削除するかどうかの確認を求められます。
 - [Yes] を選択して SNMP 拡張エージェントを削除します。

ステップ 2 ハード ドライブから次のフォルダを削除します。

- C:\informix
- C:\ifmxdata
- C:\ciscowebs\dma\bin\IIF
- C:\tmp
- C:\preferences
- C:\Program Files\Cisco\Trace\DMA
- C:\Program Files\Cisco\Trace\DBL\installdb*
- C:\Program Files\Cisco\Trace\DBL\dbl_INSTALLLDB*

ステップ 3 システムをリブートします。

ステップ 4 P.7 の「DMA のアンインストール」の説明に従って、DMA の削除を続行します。

Informix Client SDK のアンインストール

Informix Client SDK を削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[アプリケーションの追加と削除]の順に選択します。

ステップ 2 [アプリケーションの追加と削除] ウィンドウで、[IBM Informix Client-SDK] を選択します。

ステップ 3 [削除] をクリックします。[Uninstall IBM Informix Client-SDK] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Yes] をクリックして [IBM Informix Client-SDK] を削除します。

ステップ 5 システムをリブートします。

DMA のアンインストール

DMA をアンインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[アプリケーションの追加と削除]の順に選択します。

ステップ 2 [アプリケーションの追加と削除] ウィンドウで、[Cisco Data Migration Assistant] を選択します。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

ステップ 4 DMA の削除を確認するために、[はい] をクリックします。

ステップ 5 [はい] をクリックしてシステムをリブートします。

ステップ 6 P.6 の「Informix Dynamic Server の削除」の説明に従って、DMA の削除を続行します。

始める前に

DMA を起動する前に、表 1 に示す手順を実行します。

表 1 DMA の起動前に実行する必要がある手順

手順	参照先
Cisco Unified CallManager Backup and Restore Utility を使用して、データをバックアップします。必要に応じて、BARS バックアップを使用して、現在のソフトウェアバージョンにフォルダバックできます。	次の URL で、該当するバージョンの『Cisco Unified CallManager Backup and Restore Utility Administration Guide』および関連マニュアルを参照してください。 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm
アップグレードする前に、Cisco Unified CallManager Upgrade Utility を使用して、システムが良好な状態であることを確認することをお勧めします。	次の URL で、該当するバージョンの『Using Cisco Unified CallManager Upgrade Utility』を参照してください。 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm
CAR データをバックアップする場合は、CAR プラグインがパブリッシャ サーバにインストールされていることを確認します。	P.9 の「CAR データの移行」を参照してください。
CAR データベース レコードなど、不要になったすべてのシステム データを消去します。 DMA エクスポート プロセスでは、TAR ファイルのサイズが確認されます。TAR ファイルが 2 GB を超える場合、エクスポートは失敗します。	CAR レコードを手動で消去する場合は、『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Cisco Unified CallManager Attendant Console を使用する場合は、必要なファイルがパブリッシャ サーバ上に存在することを確認します。	P.9 の「Cisco Unified CallManager Attendant Console データの移行」を参照してください。
CAPF データをサブスクリバ サーバからパブリッシャ サーバにコピーします。	P.9 の「既存の CAPF 1.0(1) データの移行」を参照してください。
Cisco Extension Mobility にユーザがログインしていないことを確認します。	
サーバに Cisco Security Agent for Unified CallManager がインストールされている場合は、DMA が正常に動作することを確認します。	P.11 の「DMA と Cisco Security Agent for Unified CallManager の互換性の確認」を参照してください。
Cisco Emergency Responder システムで DMA を実行する場合は、C:\Program Files\Cisco Systems\CiscoER\Subscriber_backup ファイルを作成し、バックアップしたすべてのサブスクリバ データをこのファイルに移動します。	詳細については、該当するバージョンの『Cisco Emergency Responder Administration Guide』を参照してください。

CAR データの移行

Cisco CDR Analysis and Reporting (CAR) データをバックアップする前に、CAR プラグインがパブリッシャ サーバにインストールされていることを確認する必要があります。CAR プラグインがインストールされていない場合は、[アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択して、CAR プラグインをインストールします。詳細については、『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) CDR レコードを Cisco Unified CallManager 5.1(3) に移行する必要がない場合は、DMA を実行する前に CDR レコードを消去することをお勧めします。

Cisco Unified CallManager Attendant Console データの移行

Cisco Unified CallManager Attendant Console を使用する場合は、DMA を実行する前に、次のファイルがパブリッシャ サーバ上に存在することを確認します。これらのファイルがパブリッシャ サーバ上に存在しない場合は、DMA を実行する前にサブスクリバサーバからパブリッシャ サーバにコピーする必要があります。

- C:\Program Files\Cisco\CallManagerAttendant\etc\acserver.properties
- C:\Program Files\Cisco\CallManagerAttendant\etc\DialRules.xml
- C:\Program Files\Cisco\CallManagerAttendant\UserLists\CorporateDirectory.txt

既存の CAPF 1.0(1) データの移行



注意

この項で説明している作業を実行しないと、CAPF データが失われる可能性があります。次の情報は、[P.10 の「4.0 サブスクリバサーバから 4.0 パブリッシャ データベース サーバへの CAPF 1.0\(1\) データのコピー」](#) と併せてお読みください。

Cisco Unified CallManager 5.1(3) で CAPF を使用方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。

Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする前に、次の詳細を確認してください。

- CAPF が Cisco Unified CallManager 4.0 パブリッシャ データベース サーバにインストールされている場合の Cisco Unified CallManager 4.0 からのアップグレード: Cisco Unified CallManager 4.0 で証明書の操作を実行し、CAPF 1.0(1) がパブリッシャ データベース サーバ上で動作した場合は、最新の操作ステータスが Cisco Unified CallManager 5.1(1) データベースに移行されます。
- CAPF が Cisco Unified CallManager 4.0 サブスクリバサーバにインストールされている場合の Cisco Unified CallManager 4.0 からのアップグレード: Cisco Unified CallManager 4.0 で証明書の操作を実行し、CAPF 1.0(1) がサブスクリバサーバ上で動作した場合は、Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする前に、CAPF データを 4.0 パブリッシャ データベース サーバにコピーする必要があります。



注意

Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする前にデータをコピーしないと、Cisco Unified CallManager 4.x サブスクリバサーバ上の CAPF データは Cisco Unified CallManager 5.1(3) データベースに移行されないため、データが失われる可能性があります。データが失われた場合、CAPF ユーティリティ 1.0(1) で発行したローカルで有効な証明書は電話機に残りますが、その証明書は無効になるため、CAPF 5.1(3) が証明書を再発行する必要があります。

- Cisco Unified CallManager 4.1(x) の任意のリリースから Cisco Unified CallManager 5.1(3) へのアップグレード：アップグレードにより、CAPF データが自動的に移行されます。

4.0 サブスクリバサーバから 4.0 パブリッシャ データベース サーバへの CAPF 1.0(1) データのコピー



注意

Cisco Unified CallManager 4.0 サブスクリバ サーバに CAPF ユーティリティ 1.0(1) をインストールした場合は、Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードする前に、CAPF データを 4.0 パブリッシャ データベース サーバにコピーする必要があります。この作業を実行しないと、CAPF データが失われます。たとえば、C:\Program Files\Cisco\CAPF\CAPF.phone にある電話機レコードファイルが失われる可能性があります。データが失われた場合、CAPF ユーティリティ 1.0(1) で発行したローカルで有効な証明書は電話機に残りますが、その証明書は無効になるため、CAPF 5.1(3) が証明書を再発行する必要があります。

次の手順は、P.9 の「既存の CAPF 1.0(1) データの移行」を併読して実行してください。CAPF データのファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 表 2 の各ファイルを、CAPF 1.0 がインストールされているマシンから、Cisco Unified CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバにコピーします。

表 2 サーバからサーバへのコピー

コピーするファイル	CAPF 1.0 がインストールされているマシンのフォルダ (コピー元)	Cisco Unified CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバのフォルダ (コピー先)
*.0	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\Certificates
CAPF.phone	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF
CAPF.config ファイル	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF

- ステップ 2** クラスタ内の各サーバを Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードします。

- ステップ 3** クラスタを Cisco Unified CallManager 5.1(3) にアップグレードした後、電話機を使用する前に、次の作業を実行します。

- 既存の Cisco CTL クライアントを削除します。
- Cisco Unified CallManager の管理ページで、[アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択して、最新の Cisco CTL クライアントをインストールします。
- クライアントを設定し、CTL ファイルを作成または更新します。



ヒント

Cisco CTL クライアントのインストールおよび設定については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

Cisco CTL クライアントは、CAPF 証明書をクラスタ内のすべてのサーバにコピーします。

ステップ 4 Cisco Unified CallManager 4.0 で使用していた CAPF ユーティリティをアンインストールします。

ステップ 5 P.11 の「新しい CAPF 証明書の生成」を参照してください。

新しい CAPF 証明書の生成

CAPF 証明書を再生成する必要がある場合は、Cisco Unified CallManager の証明書管理機能を使用します。手順および詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

DMA と Cisco Security Agent for Unified CallManager の互換性の確認

Cisco Security Agent for Unified CallManager が原因で DMA エクスポートが失敗することがあります。エクスポート中に、DMA が Cisco Security Agent for Unified CallManager を自動的に無効にする場合と無効にしない場合があります。このため、DMA エクスポートを実行する前に Cisco Security Agent for Unified CallManager サービスを手動で無効にしなければならないこともあります（この操作を行わないと、エクスポートが失敗します）。

CSA を無効および有効にする方法については、『Installing Cisco Security Agent for Unified CallManager』を参照してください。このマニュアルは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/csa/index.htm

Cisco Security Agent for Unified CallManager を手動で無効にした場合は、DMA エクスポートの終了後、必ず Cisco Security Agent for Unified CallManager を有効にしてください。



(注)

DMA を実行する前に Cisco Security Agent for Unified CallManager のアンインストールが必要になることがあります。問題がある場合は、詳細についてシスコのサポートにお問い合わせください。

DMA と Cisco Security Agent for Unified CallManager 間の相互対話には、次の規則が適用されます。

- DMA バージョン 5.0(4) 以前の場合
 - バージョン 2.0(5) より前の Cisco Security Agent for Unified CallManager は、DMA エクスポート中に自動的に無効になります。
 - バージョン 2.0(5) 以降の Cisco Security Agent for Unified CallManager は、自動的に無効になりません。DMA エクスポートを実行する前に、Cisco Security Agent for Unified CallManager を手動で無効にする必要があります。
- DMA バージョン 5.1(1) 以降の場合
 - バージョン 3.0(2) 以降の Cisco Security Agent for Unified CallManager は、DMA エクスポート中に有効のままにしておくことができます。
 - バージョン 3.0(2) より前の Cisco Security Agent for Unified CallManager は、DMA エクスポート中に有効のままにしておくことはできません。また、自動的には無効になりません。DMA エクスポートを実行する前に、Cisco Security Agent for Unified CallManager を手動で無効にする必要があります。

DMA の実行

Cisco Unified CallManager パブリッシャ サーバで DMA を実行するには、次の手順を実行します。
DMA を起動する前に、P.8 の「始める前に」の情報を確認してください。

手順

ステップ 1 [スタート] > [プログラム] > [Cisco Data Migration Assistant] > [DMAAdmin] の順に選択します。

ステップ 2 プロンプトが表示されたら、Windows Administrator としてログインします。

[Data Migration Assistant Home] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Data Migration Assistant] メニューバーで、[Export] > [Storage Location] の順に選択します。

[Storage Location] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Storage Location] ウィンドウで、次の操作を実行します。

a. 次のいずれかのオプション ボタンをクリックして、DMA が TAR ファイルを格納する場所を選択します。

- **Network Directory** : ネットワーク フォルダに TAR ファイルを格納します。次の各フィールドに情報を入力します。

Path Name : 目的のフォルダへのネットワーク パス

User Name : ネットワーク アクセス用のユーザ名

Password : ネットワーク アクセス用のパスワード

- **Local Directory** : DMA を実行しているサーバ上のフォルダに TAR ファイルを格納します。
[Path Name] フィールドで、フォルダへのパスを入力するか、[Browse] をクリックしてフォルダを選択します。



(注) マップされたネットワーク ディレクトリを Local Directory に指定しないでください。指定した場合、DMA が目的のフォルダを作成できない可能性があります。

- **Tape Device** : エクスポート デバイスに TAR ファイルを格納します。プルダウン メニューから使用可能なテープ ドライブを選択します。

DMA では、目的の各ディレクトリに 2 つの TAR ファイルを保存できます。3 つ目の TAR ファイルを保存しようとする、新しい TAR ファイルが正常に作成された後、既存の TAR ファイルのうち古い方が削除されます。

b. [Update] をクリックします。

c. エクスポートの保管場所として [Local Directory] を選択した場合は、次のプロンプトが表示されたら [OK] をクリックします。

Please ensure that you transfer the contents from the LOCAL path to an external device before upgrading. The files will not be readable from the local directory during the upgrade installation

ステップ 5 [Data Migration Assistant] メニューバーで、[Export] > [Storage Location] の順に選択します。

[Export Data] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、先に進む前に読んでおく必要のあるマニュアルの情報およびエクスポートの実行に必要な時間の概算が表示されます。

ステップ 6 このマニュアルの P.8 の「始める前に」を読んでおくと、DMA を使用して Windows システムからデータをエクスポートする前にすべての重要な作業を理解でき、完了が容易になります。その後、チェックボックスをオンにして、DMA 実行前のすべての作業を理解し、完了したことを示します。

ステップ 7 **[Start Export Now]** をクリックします。

エクスポートが開始されます。

ステータス ウィンドウに、エクスポートの進捗状況が表示されます。ステータス ウィンドウには、エクスポートの開始時と検証フェーズの開始時の両方の時点で、エクスポートの完了に必要な時間の概算が表示されます。ステータス ウィンドウを閉じた場合は、**[Export Data]** ウィンドウで **[View Latest Status]** リンクをクリックすると、再びステータス ウィンドウを表示できます。

また、エクスポート進捗ログは、ファイル C:\Program Files\Cisco\Trace\DMA\Progress\AllProgress.log でも確認できます。このフォルダには、追加のログ ファイルも格納されます。詳細については、P.17 の「ログ ファイル」を参照してください。

エクスポート プロセスの完了には、長い時間がかかることがあります。**[スタート]** > **[プログラム]** > **[Cisco DMA]** > **[Cancel Export]** の順に選択し、**[Cancel Export Process]** ダイアログボックスで **[Cancel Export Now]** をクリックすることにより、いつでもこのプロセスを停止できます。エクスポート プロセスのキャンセルには、数分かかることがあります。



(注) **[DMA]** ウィンドウを閉じるよりも最小化しておくことをお勧めします。エクスポート プロセスの実行中に **[DMA]** ウィンドウを閉じても、エクスポートは続行します。ただし、DMA を再起動すると、メイン ウィンドウに **[Reset Status]** ボタンが表示されます。**[Reset Status]** ボタンをクリックすると、現在実行中のエクスポート プロセスがキャンセルされます。



(注) DMA エクスポート プロセスでは、TAR ファイルのサイズが確認されます。TAR ファイルが 2 GB を超える場合、エクスポートは失敗し、次のメッセージがステータス ウィンドウに表示されます。

Too much data (over 2GB) to backup.Aborting backup.

TAR ファイルのサイズを小さくするには、CAR データベース レコードなどのシステムデータを消去し、DMA エクスポートを再度実行する必要があります。CAR レコードを手動で消去する場合は、『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』を参照してください。

エクスポートが正常に完了すると、ステータス ウィンドウに次の行が表示されます。

```
Archive built successfully
Export information file DMABackupinfo.inf saved to D:\DMA
```



(注) データを正常に移行できるように、DMA がデータに小さな変更をいくつか加えることがあります。

エクスポートが正常に完了しなかった場合は、ステータス ウィンドウに該当するエラー メッセージが表示されます。エラー ログを確認し、P.14 の「エクスポート データの検証」の説明に従って問題を修正する必要があります。

ステップ 8 ステップ 4 で指定したローカル ディレクトリに TAR ファイルを保存した場合は、アップグレードする前に、そのファイルをネットワーク サーバまたはテープ ドライブにコピーします。

TAR ファイルの名前の形式は、次のとおりです。ここで、*date* および *time* はファイルの作成日時を示します。

DMAExportdate#time.tar

このステップを実行しなければならない理由は、アップグレードプロセス中はローカル ディスクの TAR ファイルにアクセスできないため、およびアップグレードプロセスがローカル サーバ ディスクを再フォーマットするときに TAR ファイルが削除されるためです。



(注) DMA によって TAR ファイルが生成された後の変更は、移行されません。そのような変更を含める場合は、DMA エクスポートを再度実行する必要があります。

ステップ 9 P.14 の「エクスポート データの検証」の説明に従って、TAR ファイルにエラーがないことを確認します。

エクスポート データの検証

DMA エクスポートの実行後は、DMA によって作成されたエラー ログ、警告ログ、および自動修正ログを検査し、Cisco Unified CallManager のアップグレード後の機能の損失につながるおそれのある問題が TAR ファイルにないことを確認する必要があります。これらのログには、ステータス ページで該当するログ ボタンをクリックするか、C:\Program Files\Cisco\Trace\DMA に移動することでアクセスできます。

ログには次の情報が含まれています。

- エラー ログ (DMAErrors.log) : DMA のデータ エクスポートおよびデータ検証フェーズで検出されたエラー。DMA エクスポートを再度実行する前に、Windows の 4.x システムでこのようなエラーを確認し、修正する必要があります。
- 警告ログ (DMAWarnings.log) : DMA エクスポートおよびデータ検証フェーズで検出された警告。警告は、一部のデータがアップグレードしようとしている目的のバージョンの Cisco Unified CallManager のルールに完全には適合していないことを示します。アップグレード実行前に、警告に対処して DMA を再度実行することを強くお勧めします。使用する DMA アーカイブに警告が含まれていると、Cisco Unified CallManager のアップグレード後に機能の損失が発生するおそれがあります。
- 自動修正ログ (DMAAutoCorrected) : Cisco Unified CallManager のスキーマに適合していないデータ、DMA が Cisco Unified CallManager データベースおよびディレクトリ データのエクスポート時に自動的に修正したデータ。自動修正ログを確認してください。変更内容に同意できない場合は、自分で変更してから DMA を再度実行してください。

ステータス ページの表示方法の詳細については、P.16 の「前回実行した DMA エクスポート手順の結果の確認」を参照してください。

DMA によって生成されるその他のログの詳細については、P.17 の「ログ ファイル」を参照してください。

DMA エクスポート情報ファイル

DMA は、データをバックアップするときにエクスポート情報ファイルを自動的に作成します。このファイルには、DMA ソフトウェア、DMA を実行したサーバ、およびバックアップしたデータのソフトウェアに関する設定データと環境データが含まれています。

エクスポート情報ファイル (DMAbackupInfo.inf という名前) は、DMA を実行するサーバ上の D:\DMA フォルダに保存されます。また、このファイルは TAR ファイルの一部として保存されるため、このファイルに対しては何も操作する必要はありません。

DMA の管理とトラブルシューティング

次の各項では、DMA の管理およびトラブルシューティングに使用できる情報を示します。

- [DMA ソフトウェアのバージョンの確認 \(P.16\)](#)
- [前回実行した DMA エクスポート手順の結果の確認 \(P.16\)](#)
- [ログファイル \(P.17\)](#)
- [トレースファイル \(P.20\)](#)

DMA ソフトウェアのバージョンの確認

サーバにインストールされている DMA のバージョンを確認するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Data Migration Assistant] ウィンドウが表示されていない場合は、次のいずれかの操作を実行して、このウィンドウを表示します。
- DMA が動作している場合は、DMA メニューバーで **[Export] > [Home]** の順に選択します。
 - DMA が動作していない場合は、**[スタート] > [プログラム] > [Cisco Data Migration Assistant] > [DMAAdmin]** の順に選択し、プロンプトが表示されたら Windows Administrator としてログインします。
- ステップ 2** [Data Migration Assistant] ウィンドウで、**[Details]** ボタンをクリックします。
-

前回実行した DMA エクスポート手順の結果の確認

DMA で前回実行したエクスポート手順の結果を確認するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** **[スタート] > [プログラム] > [Cisco Data Migration Assistant] > [DMAAdmin]** の順に選択します。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、Windows Administrator としてログインします。
- ステップ 3** Data Migration Assistant メニューバーで、**[Export] > [Storage Location]** の順に選択します。
- ステップ 4** [Export Data] ウィンドウで、**[View Latest Status]** リンクをクリックします。
- エクスポート手順の実行中に **[View Latest Status]** リンクをクリックすると、現在実行している手順のステータスが表示されます。
- ステップ 5** エクスポートが完了したら、該当するボタンをクリックして、エラー ログ、警告ログ、および自動修正ログを表示できます。
-

ログ ファイル

表 3 は、DMA が作成するログ ファイルについて説明しています。必要に応じて、トラブルシューティングのサポートを受けるために、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にログ ファイルを提供できます。

表 3 DMA ログ ファイル

ファイル タイプ	説明	ファイルの場所	ファイル名
DMA インストール ログ ファイル	DMA インストール手順を実行するたびに作成されます。	C:\Program Files\ Common Files\Cisco\Logs\ DMA	DMAInstalldate_time.log (date_time はファイルの作成日時を MM-DD-YYYY 形式で表したもの) DMAInstUI.log IDSInstall.log InstallUtils.log
データベース インストール ログ ファイル	このファイルには、Informix Dynamic Server (IDS) のインストールによって生成されたログ、およびパス設定とインストール結果に関する情報が含まれます。これは、サードパーティによって生成されるログ ファイルです。	C:\Program Files\ Common Files\Cisco\Logs\ DMA\	dbcmds.log
エクスポート操作ログ ファイル	DMA を実行してデータをバックアップする日ごとに作成されます。同じ日に複数回エクスポート手順を実行すると、DMA はその日の既存のファイルに情報を追加します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA	DMAStatusdate.log (date はファイルの作成日を MM-DD-YY 形式で表したもの) このログは、[View Latest Status] リンクをクリックしても表示されます。
データベース エクスポート操作ログ ファイル	初めて DMA を実行してデータをバックアップするときに作成されます。その後エクスポート手順を実行するたびに、DMA はこのファイルに情報を追加します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DB	exportdb.log このフォルダには、他にも次のデータベース エクスポート ログがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • createdb.log • dropdb.log • dropdb_w.log
ディレクトリ エクスポート操作エラー ログ ファイル	DMA を実行してデータをバックアップするたびに作成されます。このファイルが存在する場合、DMA はこのファイルを上書きします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Error.log
ディレクトリ エクスポート操作レポート ファイル	初めて DMA を実行してデータをバックアップするときに作成されます。このファイルが存在する場合、DMA はこのファイルを上書きします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Report.txt

表 3 DMA ログ ファイル (続き)

ファイルタイプ	説明	ファイルの場所	ファイル名
ディレクトリ エクスポート操作警告ファイル	DMA を実行してデータをバックアップするたびに作成されます。このファイルが存在する場合、DMA はこのファイルを上書きします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Warning.log
ディレクトリ エクスポート操作自動修正ファイル	DMA を実行してデータをバックアップするたびに作成されます。このファイルが存在する場合、DMA はこのファイルを上書きします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Correctedusers.log
ディレクトリ エクスポート操作結果ファイル	DMA を実行してデータをバックアップするたびに作成されます。このファイルが存在する場合、DMA はこのファイルを上書きします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Result.txt
CAR エクスポート操作ログファイル	初めて DMA を実行して CDR データをエクスポートするときに作成されます。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DB	installdbcar.log
データ検証ログ	エクスポート プロセス中、データベースおよびディレクトリのデータを検証しているときに見つかった検証エラーを格納します。	C:\CiscoWebs\DMA\Bin	datavalidation.log
エクスポート進捗インジケータ ログ	DMA を実行するときに作成されます。エクスポートおよびデータ検証の高レベルの進捗ログを格納します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\Progress	AllProgress.log エクスポートの進行中にエラーが発生した場合は、同じフォルダに次のログ ファイルが作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • CSV_Import*.* • ExportDB_CCM*.* • ExportToCSVs*.* • InstallDB_Full*.*
Informix Dynamic Server (IDS) インストール ログ	DMA のインストール中に作成されます。IDS インストールのログを格納します。	C:\Program Files\ Common Files\Cisco\Logs	IDSInstall.log
統合エラーログ	DMA のデータ エクスポートおよびデータ検証フェーズで検出されたエラーが含まれます。DMA エクスポートを再度実行する前に、Windows の 4.x システムでこのようなエラーを確認し、修正する必要があります。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA	DMAErrors.log
統合警告ログ	DMA のエクスポートおよびデータ検証フェーズで検出された警告が含まれます。アップグレード実行前に、警告に対処して DMA を再度実行することを強くお勧めします。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA	DMAWarnings.log

表 3 DMA ログ ファイル (続き)

ファイル タイプ	説明	ファイルの場所	ファイル名
統合自動修正ログ	DMA のエクスポートおよびデータ検証フェーズで検出された Cisco Unified CallManager に適合しないデータで、DMA が自動修正したデータが含まれます。これらの項目に対してアクションは必要ありません。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA	DMAAutoCorrected.log

一般的なエラー

DMA は、表 4 で説明しているエラーを返すことがあります。このエラーにより DMA の実行に失敗する場合があります。

表 4 DMA のエラー メッセージと説明

エラー メッセージ	説明
Failure- Product check; Database contains models that are no longer supported in this release. AT, AS, and ICS gateways are not supported. Please remove unsupported models and repeat export.	このエラーは、次のいずれかの項目がデバイス テーブルに存在する場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AT-2 Gateway PRODUCT_AT2_GATEWAY • Cisco AT-4 Gateway PRODUCT_AT4_GATEWAY • Cisco AT-8 Gateway PRODUCT_AT8_GATEWAY • Cisco AS-2 Gateway PRODUCT_AS2_GATEWAY • Cisco AS-4 Gateway PRODUCT_AS4_GATEWAY • Cisco AS-8 Gateway PRODUCT_AS8_GATEWAY • すべての ICS プラットフォーム
Failure, Pre-SD CCM Migration	このエラーは、Cisco CallManager 3.x から Cisco Unified CallManager 4.1 への移行中に問題が発生したことを示します。
Failure - Sony devices exist in the database, but there is no corresponding csv file. Please reinstall the Sony installation.	このエラーは、システムが Sony 電話機の CSV ファイルを検出できないことを示します。移行を続行する前に、デバイスを再インストールする必要があります。
Failure - Tandberg devices exist in the database, but there is no corresponding csv file. Please reinstall the Tandberg installation.	このエラーは、システムが Tandberg 電話機の CSV ファイルを検出できないことを示します。移行を続行する前に、デバイスを再インストールする必要があります。
Failure- Invalid enum 31970 in Zimbabwe Locale csv file. Zimbabwe network locale needs to be replaced with a newer version before upgrade.	このエラーは、無効なバージョンの Zimbabwe ロケール ファイルが存在することを示します。移行を続行する前に、Cisco.com から Zimbabwe ロケール ファイルの新しいコピーをダウンロードし、システムにインストールする必要があります。
Failure- Zimbabwe network locale needs to be replaced with a newer version before upgrade.	このエラーは、無効なバージョンの Zimbabwe ロケール ファイルが存在することを示します。移行を続行する前に、Cisco.com から Zimbabwe ロケール ファイルの新しいコピーをダウンロードし、システムにインストールする必要があります。

表 4 DMA のエラー メッセージと説明 (続き)

エラー メッセージ	説明
Failure- Tandberg.xml file is invalid and needs to be replaced before upgrade. Please reinstall Tandberg with a newer installation.	このエラーは、無効なバージョンの Tandberg.xml ファイルが存在することを示します。移行を続行する前に、Cisco.com から Tandberg.xml ファイルの新しいコピーをダウンロードし、システムにインストールする必要があります。

トレース ファイル

表 5 は、DMA が作成するトレース ファイルについて説明しています。必要に応じて、トラブルシューティングのサポートを受けるために、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にトレース ファイルを提供できます。

表 5 DMA トレース ファイル

ファイル タイプ	説明	ファイルの場所	ファイル名
DMA 操作トレース ファイル	DMA を実行してデータをバックアップする日ごとに作成されます。同じ日に複数回バックアップ手順を実行すると、DMA はその日の既存のファイルに情報を追加します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA	DMA<Tracedate.log> (date はファイルの作成日または更新日を MM-DD-YY 形式で表したもの)
データベース エクスポート操作トレース ファイル	DMA は、Cisco Unified CallManager データをバックアップするたびに 1 つのファイルを作成し、CAR データをバックアップするたびに 1 つのファイルを作成します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DB	<ul style="list-style-type: none"> エクスポート : instaldbccm.log W1 インストール : instaldbw1.log
ディレクトリ エクスポート操作トレース ファイル	初めて DMA を実行してデータをバックアップするときに作成されます。その後エクスポート手順を実行するたびに、DMA はこのファイルに情報を追加します。	C:\Program Files\Cisco\Trace\ DMA\DirExport\log	DirExport_Trace.log
データベース インストールセットアップトレース ファイル	Informix セットアップ ステータスを表示します。	C:\Program Files\ Common Files\Cisco\Logs\ DMA	dbcmds.log

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0708R)

Copyright © 2007, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスコ コンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00